

I 目指す学校像

本校の教育目標

- 個性や能力を伸ばし、生徒一人一人の自己実現を援助する。
- 自主性を大切にし、実行力と創造力に富んだ生徒を育てる。
- 健全な心身の成長を促し、社会的責任を自覚した生徒を育てる。
- 学ぶ喜びを体験させ、生涯にわたって学ぶ意欲・態度を培う。

教育目標を実現し、変化の激しいこれからの社会を生き抜く、知・徳・体のバランスのとれた人間を育成する学校を目指す。

II 中期的目標と方策

- | | |
|--------------|---|
| 1 確かな学力の向上 | 教員の授業力向上、学年・教科の連携、学習意欲が高まる授業の実施と学びの基盤プロジェクトによる「読解力」及び「自ら学ぶ力」を育成 |
| 2 実現する進路指導 | 生徒が希望する進路を実現するための進路指導 |
| 3 豊かな人間性の育成 | 社会貢献の推進、規範意識の醸成、自尊感情を高める学校行事の実施 |
| 4 健康づくりと体力向上 | 主体的で適切な健康観を育成し、部活動等を通じた体力向上 |
| 5 地域との連携 | 地域から信頼され、地域に貢献する人間の育成 |
| 6 チーム板橋の構築 | 教職員が一体となった組織的な体制の構築 |

III 今年度の取組目標と方策「輝く未来に向かって 新たな伝統を—板橋 創立100年に向けて—」

1 教育活動の目標と方策

(1) 学習指導

- ①「学びの基盤」プロジェクト研究協力校として、読解力の向上、自ら学ぶ力の育成を意識した授業を実施する。
- ②生徒の授業満足度を一層高めるために、学カスタンダードの分析に基づく授業、主体的・対話的で深い学びを目指した授業、生徒一人一台端末体制を見据えたICT機器を活用した授業、学んだことを取り入れた授業、教員相互の授業見学を実施する。
- ③学習習慣を身に付けるため、教科・学年等が連携して週末課題を課し、自主学習時間を伸長する。
- ④「生徒による授業評価」を検証・分析をし、授業力向上を図る。
- ⑤ランドデザインを基にした教育課程を構築し、学習評価の改善を図る。
- ⑥図書館の蔵書を充実させ、生徒が本に親しむ環境を整備する。

(2) 進路指導

- ①3年間の系統的なキャリア教育を推進し、進路指導部と学年が連携し、組織的かつ系統的な進路指導を行う。特に、特進クラスの生徒への受験指導の充実を図る。
- ②「都立高校生の社会的・職業的自立支援プログラム事業」を活用し、生徒の進路意識を高める。
- ③土曜講習、授業以外の講習等を実施し、大学受験に対応した学力を醸成する。
- ④多様化した生徒のニーズに応えるために進路情報の収集を行い、キャリア教育研修を実施する。

(3) 生活指導

- ①都立高校生活指導指針に基づいた生活指導を行い、生徒の規範意識を育成する。
- ②校内研修やいじめアンケートの実施、いじめ対策・特別支援委員会の定期開催によりいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、スクールカウンセラーと連携して自殺防止教育を推進する。
- ③一貫した服装指導を中心とした身だしなみ指導、遅刻指導等を行う。
- ④自転車運転指導を中心とした交通安全指導、SNSに関する指導を中心とした生活安全指導を行う。

(4) 保健指導・防災教育

- ①スクールカウンセラー、養護教諭、教育相談担当教員を中心とした教育相談体制を充実する。

- ②学校医との連携を強化し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策、心身の健康づくりを推進する。
 - ③関係機関と連携した防災教育を推進する。
 - ④校内清掃等美化活動に一層力を入れ、学習環境を整える。
- (5) 学校行事・部活動・地域連携等
- ①生徒が主体的に活躍でき、達成感を得ることができ、自尊感情が高まる学校行事を実施する。
 - ②部活動の推進に向けて、部活動加入率を増加させるとともに部活動の成果発信を積極的に行う。
 - ③「アクティブプラン to2020」に基づき、体育の授業を充実させ、生徒の体力向上を図る。
 - ④地域貢献等を通してボランティアマインドを醸成するなど、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。
- (6) 学校運営
- ①企画調整会議を学校組織の中心に据え、教職員が一体となった学校運営をする。
 - ②生徒募集の広報活動、学校見学会、学校説明会を充実させ、入学者選抜倍率を維持する。
 - ③学校ホームページをリニューアルし、学校の情報発信を積極的に行う。
 - ④様々な機会を捉えて、教育職員と企画室職員の連携・協力を推進する。
 - ⑤教育環境の整備・充実に向けて、自律経営推進予算の適正に執行する。
 - ⑥「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、部活動指導員等の配置や効率的な会議等の在り方を検討し、教職員のライフワーク・バランスを推進する。
 - ⑦服務事故防止に向けた研修を実施し、服務事故を根絶する。

2 重点目標と方策（数値目標）

- (1)-①「学びの基盤プロジェクト」に基づく研究授業を4回以上実施する。
- (1)-②日々の授業改善により生徒の授業満足度を75%以上、外部模試GTZをC2以上とする。
- (1)-③土曜講習の実施や週末課題、小テスト等を課すことにより生徒の自主学習時間平日1日1時間以上の割合を60%以上とする
- (1)-⑥購入図書の精選、図書館便りの発行等により年間の本の貸し出し数を4000冊以上とする。
- (2)-①生徒一人一人に寄り添う進路指導や土曜講習の実施により4年制大学進学率50%以上、日東駒専以上の現役合格を15名以上、卒業時の進路決定率を90%以上とする。
- (2)-③大学受験に対応した土曜講習の実施により、のべ参加者数を3000名以上とする。
- (3)-③毎朝の登校時指導等により遅刻者を6.0%以下とする。
- (3)-④交通安全指導を丁寧に行うことで、生徒の登下校時の自転車事故を0件とする。
- (4)-③消防署と連携し、上級救命講習1年生生徒が全員受講する。
- (5)-②部活動ができる環境整備を推進し、生徒の部活動加入率を65%以上とする。
- (5)-⑤部活動や学校行事等について発信し、ホームページの更新回数を180回以上とする。
- (6)-②学校見学会・学校説明会の開催方法の工夫により、学校見学会・学校説明会への参加者数を1500名以上、入試対策講座の開催を1回以上、学力検査に基づく選抜の倍率を1.50倍以上とする。
- (6)-④計画的な予算の執行により自立経営推進予算の一般需用費センター執行割合を60%以上とする。
- (6)-⑥学期ごとに年3回の研修実施により服務事故を0件とする。